

【参考資料】 RICSとIAIについて

RICS (英国王立チャータード・サベイヤーズ協会)

RICSは、産業革命後の英国近代化に貢献した約50名の Surveyor によって、1868年6月にロンドンで「The Institution of Surveyors」として設立されました。その後1881年8月に英国王から「Royal Charter(王立機関)」として認められることとなり、会員は「Chartered Surveyor」と称することになりました。1947年7月に、協会名称が現在の「Royal Institution of Chartered Surveyors (RICS)」となりました。

RICS本部は英国ロンドンにありますが、欧州、中東アフリカ、東アジア・東南アジア、オセアニア、南アジア、北中南米・カリブ海といった世界各地の146か国に活動を広げています。世界各地では正会員が約12万名活躍しており、学生やトレイニー約6万5千名が正会員を目指して勉強中です。RICS会員は、国際的な認知度とステータスが高く、仕事での高い優位性を持っています。また、専門知識・情報の提供(CPDを含む)や厳しい倫理基準によって、会員の高度な専門性を確保しています。

RICSの資格(称号)とは、我が国のように試験を合格して得られるものではなく、入会したことにより与えられるステータスです。RICSの正会員としては専門分野で働くものに与えられる「MRICS (Professional Members)」と、業界の発展に卓越した貢献をしたものに与えられる「FRICS(Fellows)」があります。そのほかに、エントリーレベルの「Assoc RICS (Associate Members)」があります。MRICSは、RICSが認定した大学のコースで学位を取得し、1～2年の実務研修後、レポート・面接・テストを受けるコースが一般的といわれ、非常に狭き門となっています。

RICSには3つのジャンルと17の専門グループがあり、「骨董品・美術品」、「建物調査」、「建築技術」、「事業用不動産」、「紛争解決」、「環境」、「ファシリティ・マネジメント」、「マネジメント・コンサルティング」、「ジオマティックス」、「鉱物資源・廃棄物管理」、「計画開発」、「機械・業務用資産」、「プロジェクト・マネジメント」、「居住用不動産」、「農地等」、「評価」と多岐にわたっています。

そのなかで、「Quantity Surveying & Construction Professional Group」に所属した会員(MRICSかFRICS)が「Chartered Quantity Surveyor(チャータード・クオンティティ・サベイヤー)」の称号で呼ばれ、「QS」と略称で呼ばれることもあります。(以下「QS」といいます)英国および英国の影響下にある(あった)海外の国々では、建設プロジェクトにおいて発注者の利益を守る独立した専門職能としてQSが活躍しています。工事費積算を主要な業務としていた時代を経て、現在ではコストマネジメント、スケジュール管理、リスク管理、発注調達・契約管理、支払管理といった、建設プロジェクトにおける経済面全般の管理について職域を広げています。プロジェクト全体を統括するマネジャーとして活躍することもみられるようです。

一般社団法人IAI日本 (building SMART Japan Chapter)

IAI (International Alliance for Interoperability)は、1995年米国で設立され1996年イギリス支部と同時に日本支部も設立されました。5年ほど前からIAIという呼称では何をする団体か分かりにくいため海外では building SMART と称するようになりましたが、日本では社団法人としての登記と、それなりの知名度が出てきたためIAI日本をそのまま使っています。

IAIは、建物のライフサイクルを通じて様々なソフトウェアの相互利用を可能にする標準化を進めるための活動を行っています。現在、世界各地域に15の支部が設置され、BIMの標準化を推進する国際組織となっています。わが国においては、建設会社・設計事務所・システム開発企業あるいは研究機関といった多様な分野の120会員が参加しています。標準化活動は次の8分科会で行われています。

意匠・クロスドメイン、構造、設備・FM、土木、技術タスクフォース、実装、Build Live(BIM仮想コンペティション)、ガイドライン。

BIMにおいて、建物を構成するすべてのオブジェクト（壁やドアといった構成要素）の体系的な表現をIFC (Industry Foundation Classes) と呼ばれる統一仕様で定義し、様々なアプリケーションにおけるデータの共有化と活用を推進しています。このIFCは、2013年3月にISO16379-2013 となりました。